

三七七五番

あらたまの 年の緒長く 逢はざれど 異しき心
を 我も思はなくに

三七七六番

今日もかも 都なりせば 見まく欲り 西の御
殿の 外に立てらまし

三七七七番

昨日今日 君に逢はずて するすべの たどきを
知らに 音のみしそ泣く

三七七八番

白たへの 我が衣手を 取り持ちて 斎へ我が
背子 直に逢ふまでに